

サビエル生誕五百年

藤屋 侃士
(下松市幸ヶ丘)

ちょうど正反対の生き方をしている山口市仁保のカルメル会を定期的に訪れるようになり、その餓えに関心が強くなる。

今年の十月十五日ま

(あし)、精神的、靈的

マザーテレサ
MOTHER TERESA
COME BE MY LIGHT

わたしの光になりなさい

編集と解説 ブライアン・クロフ (エチュベック)
著者と対話 ブライアン・クロフ (エチュベック)
翻訳 山田伸一郎 (エチュベック)

ら出る一つつの言葉で生きる」(マタイ四章)。パンの必要性を否定

だけならそれは動物ではしない。しかし飽食

ある。人間は考える草

生きるもの。それがな

く、ただ飽食だけなら

餓えを感じるのは当然

のことだ。

しかし飽食とあふれ

た場所で咲きなさい

喜びにあふれている。

シスター渡辺和子の

開けているのかもしれ

ないと一人で笑う。

先日、カルメル会の

院長から分厚い一冊の

本をプレゼントされ

た。「マザーテレサ来て、

わたしの光になりなさ

い!」(女子パウロ会出版)。マザーテレサが置かれた、いや自分を置いた場所はインドの極貧の人たちの中。そこで生活し、行動して光となつた。

世界的に有名なマ

ザーは別として、山口

のカルメリットは私の身

近な聖なる人である。

そして世俗に生きて、

神への餓え・渴きを持つ

なら、共に歩む希望を

与えてくれる人でもあ

る。



師走に入り、クリスマスも商業主義に踊らされマスケーキやおせち料理の予約受付の広告が目立つ。スーパーにはクリスマスソングが流れて、クリスマスに行くが、品物があれ、何か消費をあおつふれている。今の日本でいうように思える。は飽食の時代。この暖かい衣飽食の中に何ともいえない餓え・渴きを感じる。だから、日本のカルメル会もその二つだ。

生誕五百年を機に月に一回、カルメル会で同会の前日本管区長の中川博道神父から靈的指導を受ける。神父は「聖テレジアは中世だけでなく、二十一世紀のためにも生まれた人」という。先月の話では「日々の生活の中でイエスを生きなさい」と。二千年前の神の子イエスの言葉が聖書にある。「人はパンだけで生きる。暖衣飽食とは正反対の生活の中で靈的には

観想修道会の生き方を世捨て人的隠遁(いんとん)生活と思う人がいるかもしれないが、決してそうではない。神に餓えて生きることの証ではない。餓えは人間であることの証ではないだろうか。

山口のカルメル会の中庭に面した外壁にツバメが巣を作り、三羽のひなが生まれた。上のひなが生まれた。上のひなが生まれた。上

ために生まれた人」を世捨て人の隠遁(いんとん)生活と思う人がいるかもしれないが、決してそうではない。神に餓えて生きることは靈的ではなく、二十一世紀のためにも生まれた人」という。先月の話では「日々の生活の中でイエスを生きなさい」と。二千年前の神の子イエスの言葉が聖書にある。「人はパンだけで生きる。暖衣飽食とは正反対の生活の中で靈的には

カルメル会のツバメ